科目ナンバリング	U-LAS05 20020 SJ23						
授業科目名<英訳>	地理学基礎ゼミナールⅠ（読図） Introductory Seminar on Geography I (Map Reading)			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 山村 亜希		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	木2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本授業では、地形図をもとに過去と現在の地域のつながりや地域の成り立ち・特徴を考える歴史地理学の基礎的な方法を学ぶ。具体的には、日本各地の旧版地形図（明治・大正期の地形図）を題材として、かつての地形、集落、交通、生業、生活などを読み取る「読図」を行う。そして、それ以降に作成された、昭和・平成期の同地域の地形図と比較し、現代に至る地域の変化について考察を行う。

授業では最初に日本のある地域の地形図をサンプルとして提示するので、「読図」練習をグループごとに行う。その後、受講生それぞれが異なる対象地を選んで、発表に適した範囲の新旧地形図のコピーを準備する。そして、各自で読図と新旧比較を進め、レジュメを作成し、口頭で発表する。発表に続いてディスカッションを行い、更に多くの発見を導く。

受講生の選ぶ対象地は、各自で地理的なテーマを決めて、地形図にそれが読み取れる場所を選ぶ。このとき、発展・拡大・延伸だけでなく、衰退・縮小・撤退・再活用があると、一層面白いテーマになる。中学や高校の地理の教科書・地図帳で、特定のテーマの代表例として取り上げられる場所を、改めて地形図で見直すのも、多くの発見が得られる。

（例）高地のリゾート（軽井沢）、山地のリゾート（志賀高原、黒部・アルペンルート）、海浜のリゾート（伊勢志摩）、工業地帯の形成（京浜・京葉工業地帯）、掘り込み式港湾（室蘭、鹿島）、炭鉱の盛衰（筑豊炭田）、昭和の電源開発（ダム湖）、産地の形成（勝沼、渥美半島）、過疎地の現在（中国山地）

これらの作業を通じて、地図を読む視点や方法を習得すると同時に、日本の地域の多様性を発見し、その仕組みを理解することが、本授業の目的である。

[到達目標]

日本の地形図の基本的な種類・特徴を理解し、同じ場所の新旧地形図を比較できるようになる。地形図を多角的に読み、空間から物事を発想・推定する力を身につける。

[授業計画と内容]

第1回　概要説明
第2～3回　読図の練習（グループ）、発表順番・日程の決定
第4～13回　発表・討論（フィールドワーク）
第14回　総括
第15回　フィードバック（フィードバック期間中に行う）

[履修要件]

特になし

地理学基礎ゼミナールⅠ（読図）(2)へ続く↓↓↓

地理学基礎ゼミナールⅠ（読図）(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート30%、発表・レジュメの作成30%、毎週のコメントペーパー40%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

発表レジュメの作成と準備が予習となる。発表でのコメントや指摘をふまえて、レジュメの改善を行い、期末レポートの作成につなげることが復習となる。

[その他（オフィスアワー等）]

教室定員に収めるため、希望者が20名を超えた場合は抽選となる。フィールドワークに係る交通費は自己負担である。フィールドワーク中の事故や怪我に備えて、学生教育研究災害傷害保険に各自加入しておくこと。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部